

新編 立川市史 関連 講演会

資料編現代1刊行によせて

米軍基地と砂川

— 闘争までの道のり

第1部..13時5分

講師・栗田尚弥

立川市史編さん現代部会・特定部会委員
國學院大學文学部講師

米軍戦略と飛行場拡張計画

第2部..14時25分

講師・沖川伸夫

立川市史編さん現代部会・部会長
中央大学法学部兼任講師

敗戦後の砂川村勤労者組合の軌跡

— 地域文化運動から砂川闘争へ

令和2(2020)年1月19日(日)

13:00~15:50 開場:12時30分

会場:女性総合センター・アィム 1階ホール

先着100名・参加費無料・事前申込不要・手話通訳あり

砂川町役場前の火の見やぐらから立川基地を望む・昭和31(1956)年頃

問い合わせ:立川市地域文化課市史編さん担当 TEL042-506-0021 Mail chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

講演会概要

第1部 13:05～ 米軍戦略と飛行場拡張計画

講師・栗田尚弥 立川市史編さん現代部会 特定部会委員／國學院大學文学部講師



1945年、日本の敗戦にともない、立川陸軍飛行場も米軍に接收され、米陸軍航空軍（後に空軍）の基地となりました。朝鮮戦争では立川基地は航空兵站基地として大きな役割を果たしましたが、朝鮮戦争後、アメリカは戦争により悪化した財政の回復と東側陣営への対抗のため、陸海軍を合理化し、核戦力と空軍力を充実させる戦略を立てました。そのなかには、航空機のジェット化とそれにとまなう滑走路の拡張が含まれていました。そして、拡張される滑走路の候補のなかには、立川基地の滑走路も含まれていたのです。

第2部 14:25～ 敗戦後の砂川村勤労者組合の軌跡 — 地域文化運動から砂川闘争へ

講師・沖川伸夫 立川市史編さん現代部会 部会長／中央大学法学部兼任講師



砂川村の勤労者が集まり、砂川村勤労者組合が昭和23(1948)年に誕生しました。初めのうちは、メンバーの相互扶助と地域文化活動に重点を置いた親睦団体でしたが、次第に村政改革を指向する勢力に変化し、その結果砂川闘争につながる素地を形づくる1つの流れを築いていきました。

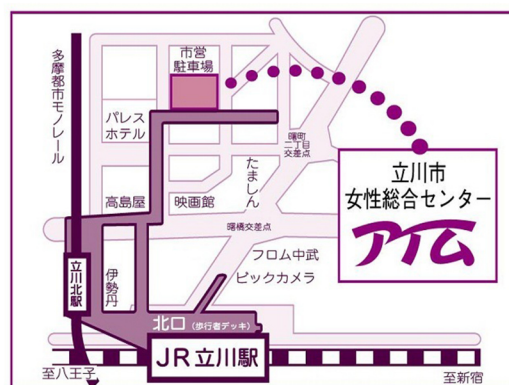
今回の講演では、公文書や青年団資料を手がかりに、砂川闘争へと結実していく勤労者組合の軌跡を探ります。軌跡をたどることで、今年で65周年を迎える砂川闘争の一断面を明らかにすることができればと考えています。

会場と多摩郷土誌フェアのお知らせ

立川市女性総合センター・AIM 1階ホール
立川市曙町2丁目36-2 JR立川駅より徒歩7分
※施設の専用駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

同日に第32回多摩郷土誌フェアが開催されます。講演会と合わせて是非お立ち寄りください。

【会期】令和2(2020)年1月18日(土)午前10時から午後5時、19日(日)午前10時から午後3時【場所】立川市女性総合センター・AIM 1階ギャラリー



刊行物一覧

新編立川市史刊行物は各種好評発売中です(会期中は多摩郷土誌フェアでも購入可)【頒布場所】立川市役所本庁3階市政情報コーナー、立川市歴史民俗資料館、オリオン書房ノルテ店、ジュンク堂書店立川高島屋店



新編立川市史 資料編

地図・絵図

A4判・フルカラー・約200ページ・DVD付・価格3,000円

調査報告書

先史編1 向郷遺跡 竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書 A4判・約200ページ・価格1,000円

民俗・地誌編1 砂川青年団資料集 A4判横・約550ページ・価格1,500円

近世編1 鈴木家文書目録 A4判・約250ページ・価格1,000円

令和2年3月刊行予定 新編立川市史 資料編 古代・中世・現代1・柴崎の民俗